

COMPACT MIXERS

MU 502/1002

USER'S MANUAL

日本語版



株式会社サウンドハウス

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡 1958

TEL: 0476(22)9333 FAX: 0476(22)9334

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

CONTENTS

はじめに	4	16. ロー・フリーケンシー・コントロール	8
取扱い上の注意	4	17. ハイパス・フィルター (75 Hz)	8
初期設定	5	18. EFX コントロール	8
接続端子	6	19. +4 /-10 スイッチ	8
1. XLR マイクロフォン・ジャック	6	20. PAN /BALANCE コントロール	8
2. ライン入力	6	21. ピーク・インジケータ	9
3. INS (MU 502のみ)	6	22. レベル・コントロール	9
4. ステレオ・チャンネル	6	23. EFX マスター・コントロール	9
5. メイン L / R 出力	6	24. AUXステレオ・リターン・コントロール	9
6. EFX センド (MU 1002のみ).....	6	25. 2T リターン・コントロール	9
7. フォーン	6	26. EFX キューボタン (MU 1002のみ)	9
8. 2T レコード /レコード・アウト	7	27. ファンタム電源スイッチ	10
9. 2T リターン	7	28. Phones (Ctrl Rm/Phones)コントロール	10
10. コントロール・ルーム出力	7	29. メインL/Rコントロール.....	10
11. 電源スイッチ	7	30. Mono ボタン (MU 1002のみ)	10
12. 電源コネクター	7	31. レベルメーター	10
13. ライン/マイク・ゲイン・コントロール	7	32. 電源インジケータ	10
14. ハイ・フリーケンシー・コントロール	8	応用	11
15. ミドル・フリーケンシー・コントロール	8		

はじめに

この度はPHONIC社製のコンパクトミキサーをお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。
商品の性能をフルに発揮させ末永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取扱い説明書を必ずお読み下さい。
尚、お読みになった後は保証書と一緒に大切に保管して下さい。

取扱上のご注意

1. この取扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 定格電圧AC100V50/60Hzで御使用下さい。
3. 電源を入れる前にフェーダーが全部下がっていることを確認して下さい。
4. 機材同士を接続する場合、はじめに電源を切して下さい。
5. 換気を必要とする為リアパネルやサイドパネルは物でふさがないで下さい。換気不足のため製品が故障した場合、保証は無効になります。
6. 本製品は屋内使用専用です。雨天や湿気の高い場所で使用すると火災や感電の原因となります。
7. 万が一製品に液体がかかった場合は直ぐに電源プラグを抜き、販売店もしくは正規代理店にご相談下さい。
8. ラジエーター、ストーブなど熱を発する機材のそばに本製品を設置しないで下さい。
9. お客様ご自身での修理は行わないで下さい。製品に不具合が生じた場合は販売店もしくは正規代理店にご相談下さい。
10. 本体を清掃する場合、水で湿らせた布と乾いたブラシを使用して下さい。洗剤やアルコールは使用しないで下さい。清掃は定期的に行って下さい。
11. ご購入直後に商品の欠損、破損が無いか確認してください。欠損、破損が見受けられた場合は即座に販売店、もしくは正規代理店にご連絡下さい。
12. 再生音がクリアに聞こえる場所に本体を設置して下さい。
13. 出来る限りバランス接続を試みてください。ミキサーの電源コードが照明用機材のコード等と混線しないよう注意して下さい。どうしても混線してしまう場合、オーディオケーブルと照明用ケーブルが直角に交わるように設置します。これで干渉の可能性が少なくなります。アンバランス接続のケーブルはなるべく短くなるようにして下さい。
14. パワーアンプの電源を入れる前にミキサーの電源を入れて下さい。また電源を切る場合、先にパワーアンプの電源をOFFにして下さい。

初期設定

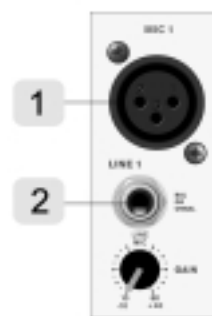
1. 入力チャンネルに適正なオーディオ・レベルを得る為、各レベル入力コントロールは必ず最小に設定してください。
2. 最も純粋な信号を得る為、使用していないチャンネルの入力には機器を接続しないで下さい。
3. 該当チャンネルのレベルコントロールを0dBマークに合わせます。
4. チャンネルには実際に使用される環境での信号に近い信号を入力してください。例えば、そのチャンネルがマイクロフォン用として使われるのであれば実際にパフォーマンスで歌い、喋るのと同じ位のレベルを入力してください。ギター用として使われるのであれば実演するのと同じくらいの強さでピッキングしてください。そうする事で、正確なレベルを得ることができ、後々設定を変える必要がなくなります。
5. レベル・メーターが0dB付近を示すように、ゲインを設定して下さい。
これでこのチャンネルの設定は終了です。他のチャンネルも同様の手順で設定してください。

接続端子

1. XLRマイクロフォン・ジャック

バランス/アンバランス信号用の3pin XLRジャックです。プロ・ユースのコンデンサー・マイクからダイナミック・マイク、リボン・マイクまで、XLRオス型コネクターを持つ機器で使用します。0-ノイズ・プリアンプ部が透明感のある音を忠実に再現します。

注意: コンデンサー・マイク使用時はファンタム電源が必要となります。ファンタム電源ボタンが押されている時は、アンバランス信号のマイクロフォンや楽器はこの入力で使用しないでください。



2. ライン入力

このジャックはバランス/アンバランスのフォーン入力に対応しています。ライン出力のあるキーボード、ドラムマシン、エレキギター等の電子楽器との併用が可能です。

3. INS (MU502のみ)

チャンネル1のXLRマイク入力の下に位置しているこのTRSフォーン・ジャックは主にダイナミック・プロセッサーやイコライザー等の追加の外部機器からモノラル入力の接続をする際に使用します。この方法で使用する場合、外部プロセッサーからの信号をSEND/RETURNする為のインサート・ケーブルが必要となります。



4. ステレオ・チャンネル

ステレオ・チャンネルはそれぞれ2つのTRSフォーン・ジャックが用意されており、キーボード、ギター、外部のシグナル・プロセッサーやミキサーへの接続が可能になっています。MU502では2〜3チャンネルは3ピンXLRマイク入力と2つのフォーン・ジャックを搭載しているので、モノラルのマイク/ライン入力、又はステレオのライン入力としても使用できます。このステレオ・チャンネルは左のフォーン・ジャックへ送られる音声信号が同時に右のチャンネルへも送られる形でモノラル・チャンネルとしても使用できます。逆方向へ信号が流れることはありません。



5. メインL/R出力

この2つのポートはメイン・ミキシング・バスからの最終的なステレオ・ライン信号を出力します。主な用途としてはパワー・アンプ(経由で接続されているスピーカー)、他のミキサー、様々なシグナル・プロセッサー等の外部の機器へ接続時に使用されます。



6. EFXセンド(MU1002のみ)

フォーン出力でミキサーから外部のデジタル・エフェクト・プロセッサーやアンプ、スピーカーへ接続する場合に使用します。この出力はMU1002にのみ搭載されています。



7. フォーン

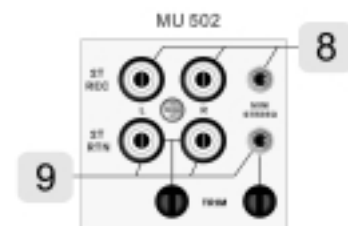
ヘッドホンでのモニターに使用します。出力レベルはPhones/Control Roomで調整可能です。

8. 2TRコード/レコード・アウト

この出力ではRCAケーブルを使用し、様々な録音機器へ接続する事が出来ます。またステレオ・ミニ端子部にはMDプレーヤーやラップトップ・コンピューターなどの録音機器を接続する事が可能です。

9. 2TRリターン

このRCAとステレオ・ミニ入力はテープ、CDプレーヤー、ラップトップ・コンピューター等と接続する事ができます。これらの機器からの信号をメインL/R、もしくはフーン・ミキシング・バスに送ります。MU502にのみ搭載されている2つのトリム・コントロールは、RCAとステレオ・ミニ・ジャックの入力感度を調節し、オーディオ・レベルとクオリティーを得ることが出来ます。



10. コントロール・ルーム出力 (MU1002のみ)

これら2つのフーン・ジャック出力は本体前面のControl Room/Phonesで調整された音声信号を出力します。この出力は様々な用途を持っています。例えば、アクティブ・モニターへの接続も可能でブース内での音声信号のモニタリングができます。



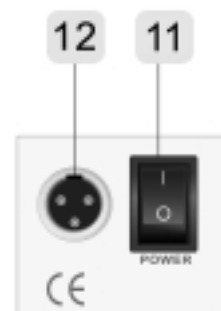
リア・パネル

11. 電源スイッチ

このスイッチで本体の電源ON/OFFを行います。

12. 電源コネクター

このポート経由で本体に電源が供給されます。電源アダプターは必ず本体付属のアダプターをご使用下さい。



13. ライン/マイク・ゲイン・コントロール

このツマミではライン/マイク入力の音声信号の感度を調整します。ピーク・インジケーターが時々点灯するように調整して下さい。MU502には本体前面にチャンネル1用のシングル・ゲイン・コントロールがあります。MU1002には両チャンネル用のゲイン・コントロールがライン入力の真下に位置しています。



14. ハイ・フリークエンシー・コントロール

この機能を使うと、高音域(12kHz)に±15dBの範囲内でブースト又はカットが可能です。ギター、シンバル、シンセサイザー等の力強く歯切れの良い音を引き出す事ができます。

15. ミドル・フリークエンシー・コントロール(MU1002のみ)

このつまみは2.5KHzにおいてHF EQつまみの様に15dBまでブーストまたはカットします。このミッド・バンドの周波帯はボーカルのレンジのほとんどをカバーしています。このコントローラーを使用することにより個性的なボーカルまたはギターの信号がどう誇張されているか、または押さえられるかが良くわかります。是非注意して聞いてみて下さい。このイコライジング機能を使用しない場合はつまみの位置を0に設定します。

16. ロー・フリークエンシー・コントロール

低音域(80Hz)に±15dBの範囲内で、ブースト又はカットができます。この機能によって音源の低音の量を調整し温かみのあり、且つパンチの効いたドラム、ベースの低域を再現する事ができます。

17. ハイパス・フィルター(75Hz)(MU1002のみ)

75Hz以下の周波数帯を削減するハイパス・フィルターを作動させます。この機能によって必要の無いグランド・ノイズやステージの振動によるノイズを削減する事ができます。

18. EFXコントロール(MU1002のみ)

EFXセンドから外部のシグナル・プロセッサに出力するレベルを調節します。音声信号はAUXリターン入力、又はステレオ・入力チャンネル経由で本体へ返す事が可能です。また単にAUX出力としても使用可能です。この調整はポスト・フェーダーのため、対応チャンネルのフェーダーでの調整もEFX信号に反映されます。

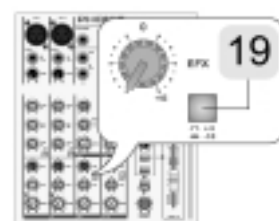
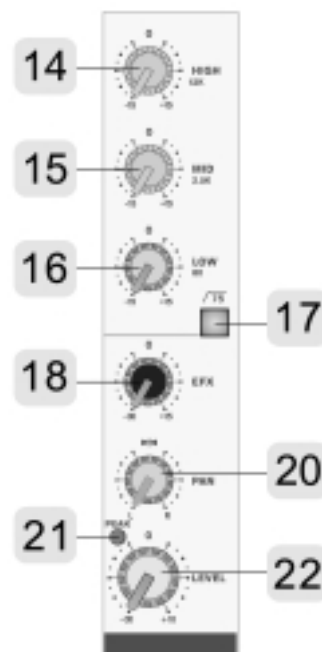
19. +4/-10スイッチ(MU1002)

このスイッチで対応チャンネルの入力感度を切替えます。この調整を行う事で、MU1002と併用して使用している外部機器とのレベルを合わせる事ができます。入力している音源が-10dBV(標準的なオーディオ機器のレベル)の場合、このスイッチを押し込みます。

+4dBuモードはプロ仕様のオーディオ機器に適しています。しかし、音源のレベルが定かでない場合は、このスイッチを押し込まず、+4dBuに音源のレベルを試してみる事をお勧めします。それから音源の音声信号レベルが明らかに低すぎる場合は必要に応じてこのスイッチを作動させて下さい。

20. PAN/BALANCEコントロール

PANコントローラーで左右のミックス・バスを提供しているチャンネル信号の設定をし、ステレオ・イメージをスムーズに調整します。バランス・コントロールはMIX出力に送られているチャンネル信号のステレオ・イメージを設定し、ソースのバランスを取ります。コントロールのつまみがフルに右または左に回っている時、回している方向と同じ側の信号のみMIXに送る事が出来ます。



21. ピーク・インジケータ

このLEDインジケータは本体がオーバー・ロードが起こる直前のハイ・ピークに達した時に点灯します。ピーク・インジケータが時々点灯するように設定すると、音源のダイナミック・レンジが最大に引き出されます。ピーク・インジケータは、MU 502 にはチャンネル1のみに搭載されています。MU1002には両方のチャンネルに搭載されています。

22. レベル・コントロール

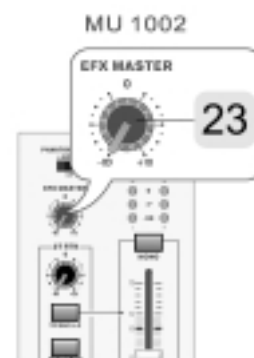
対応するチャンネルからメイン・バスへ送られる信号のレベルを調節します。

マスター・セクション

23. EFXマスター・コントロール

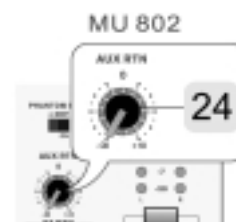
EFXミキシング・バス (MU1002)

各チャンネル・ストリップのEFXレベル・コントロールで調節されたEFXミキシング・バスや、EFX SEND出力に送られた信号の最終的なレベルを調節します。



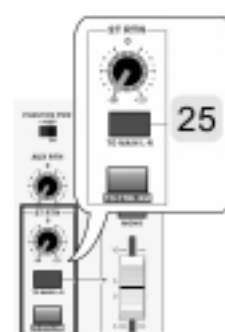
24. AUXステレオ・リターン・コントロール

AUXステレオリターンからの音声信号のレベルの調節ができます。



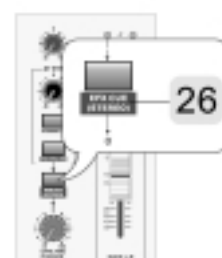
25. 2Tリターン・コントロール

2Tリターン・コントロールのセクションのどちらかのボタンを押す事で2Tのリターン信号の送り先を選択できます。一番上のボタン (L/R方向へ) は音声信号をメインL/Rミキシング・バスへ送ります。それに対して下のボタン (Phones又はCtrl Rm) はそれぞれミキシング・バスのPhone又はControl Roomへ音声信号を送ります。もちろん両方のボタンを同時に使用し、Phone、Control Room、メインL/Rミキシング・バスへ音声信号を送る事も可能です。‘To Phones’ ‘To Ctrl Rm’ ボタンが押されていない状態ではPhoneとControl Room出力はメインL/R音声信号を受けます。2Tリターン信号はEFXキューとしてこの信号より優先されます。MU1002の場合はこの信号の方が2Tリターン信号よりも優先されます。



26. EFXキュー・ボタン (MU1002)

この便利なボタンはMU1002のみに搭載されており、作動させるとすべてのチャンネル・ストリップで調整された様々なEFXレベルのステレオEFX信号をControl Room/ Phoneミキシング・バスへ送る事ができます。EFX信号はControl Room/ Phoneミキシング・バスへ送られるどの信号よりも優先されます。非作動時には2Tリターン信号が優先され、その次にメインL/R信号が優先されます。



27. ファンタム電源スイッチ

このスイッチがONになっている場合+48Vのファンタム電源がXLRマイク入力に供給され、コンデンサー・マイクの使用が可能となります。

注意: コンデンサー・マイク使用時はファンタム電源が必要となります。ファンタム電源ボタンが押されている時は、アンバランス信号のマイクロフォンや楽器はこのXLR入力で使用しないでください。

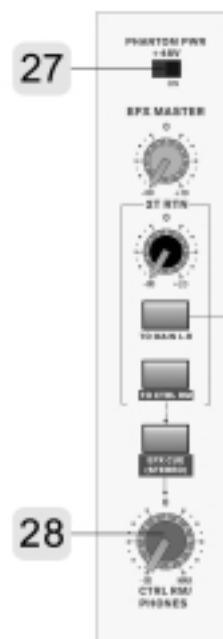
28. Phone (Ctrl Rm/Phones)コントロール

MU502ではこの機能はPhone出力への音声信号レベルを調整します。更にヘッドフォンとの併用も可能で、必要な場合は予備の出力としても使用可能です。MU1002ではこの出力レベルの調整はPhonesレベルだけではなくControl Room出力へ送られる音声信号にも反映されます。この機能はモニタリング、サイド・フィル、又は他の外部機器との併用の際に便利です。

29. メインL/Rコントロール

メインのL/R出力に送る信号を調節します。

MU502が回転式ツマミであるのに対して、MU1002は60mmのスライド・フェーダーを搭載しています。



30. MONOボタン (MU1002のみ)

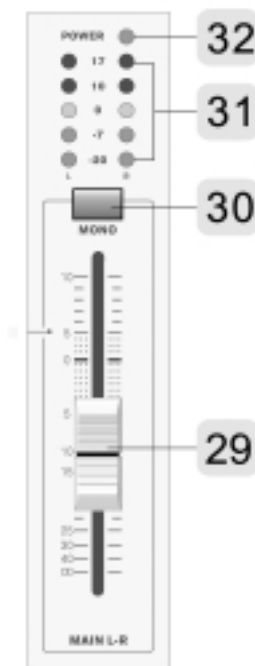
メインL/Rコントロールの上部に位置するこのボタンを使ってメインL/Rのステレオ信号をモノラル信号に変えることができます。L/Rの音を混ぜ合わせる事で、左右の信号の残音を確認する事ができます。更に、信号をモノラルに変換する事でメインL/Rの出力を2つのモノラル出力にする事ができます。

31. レベルメーター

MUシリーズのレベルメーターはいつメインL/R出力が一定のレベルへ到達したか正確に表示します。最適な環境を作るためにいくつかの設定を試し一番上のLEDが時折点灯するように設定する事をお勧めします。(更にレベルが) MU502は左右各4つのセグメントから成るレベル・インジケータ、MU1002には左右各5つのセグメントから成るレベル・インジケータを搭載しています。

32. 電源インジケータ

電源インジケータは電源がONの時に点灯します。

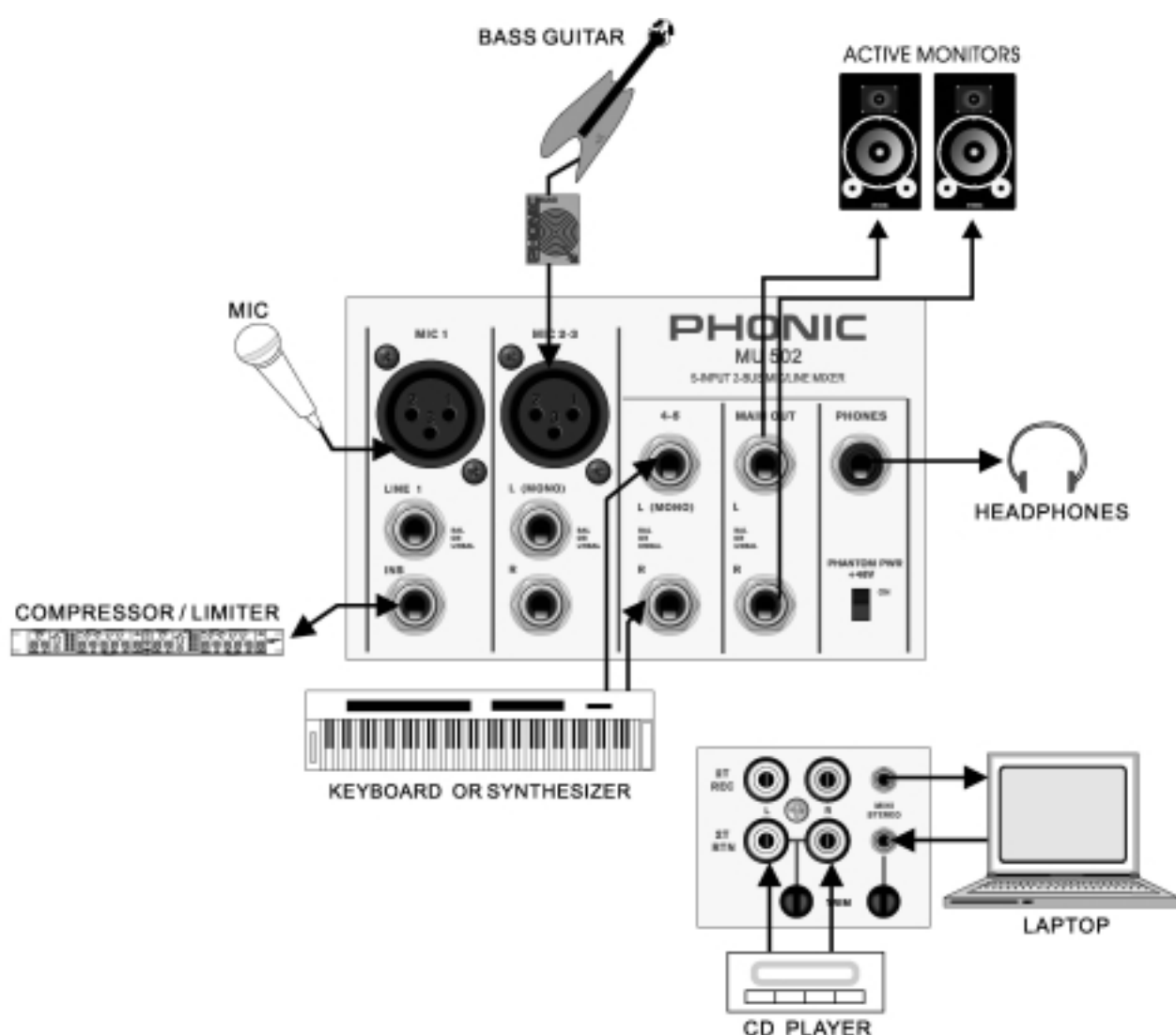


応用

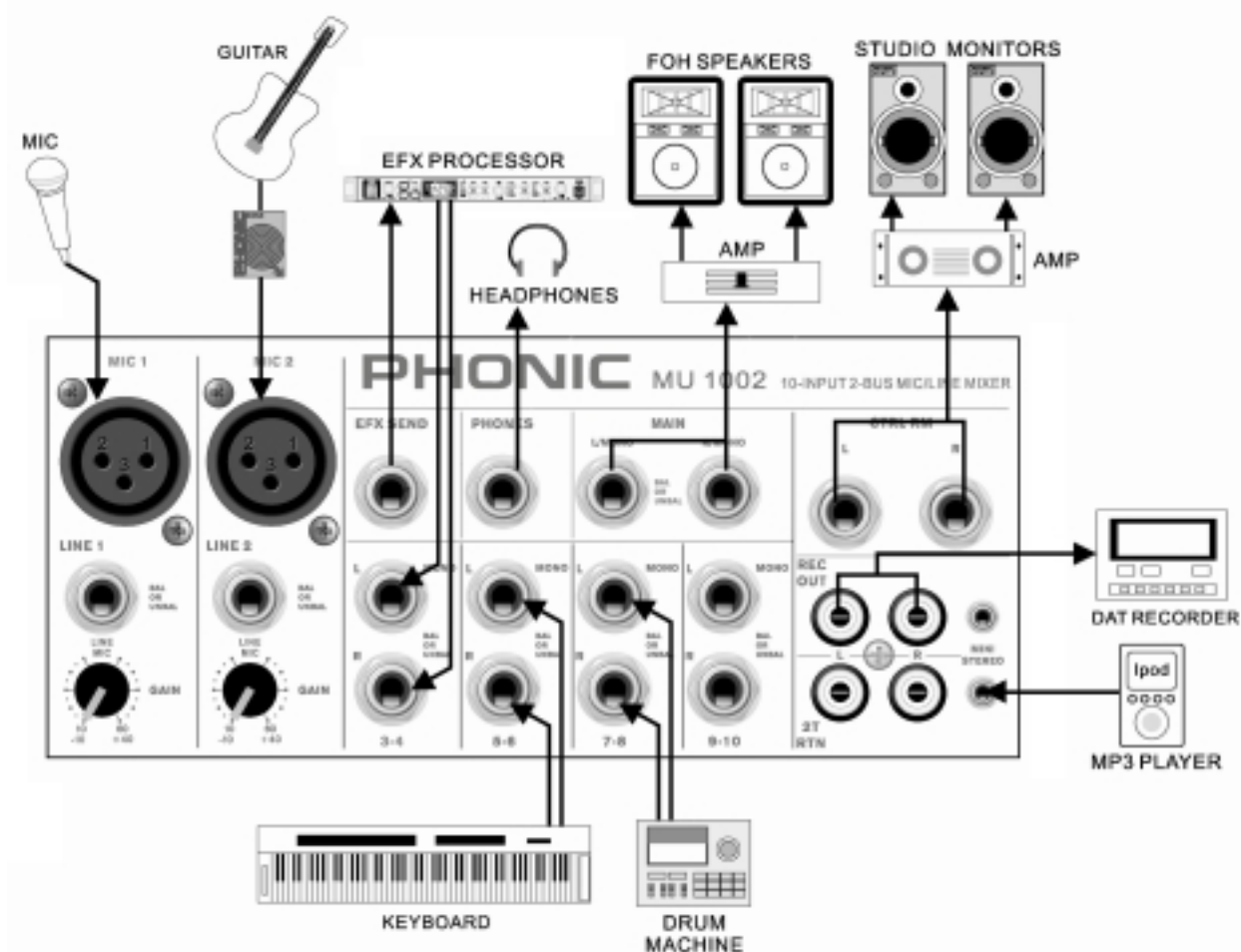
この項ではM U シリーズ・ミキサーの応用方法をご紹介します。ここで紹介できる使用法はほんの一部ですが、この一例に沿って様々な応用方法を思いつく事ができるでしょう。

録音機器、シグナル・プロセッサ、アンプ、スピーカーと同様にマイク、ギター、ドラム・マシン、キーボードの正しい組み合わせによって完璧なライブ・パフォーマンス、ホーム・スタジオ・レコーディング、更には様々な場面での場内放送が実現されます。

《レコーディング時の使用例》



《ライブ時における使用例》



《外部プロセッサ使用時の接続例》

